



震災直後の支援に 感謝を込め、 海産物を提供

（株）シーエックスカーゴ

2013年9月28日、「第21回シーエックスカーゴ感謝祭」が本社のある埼玉県桶川市で開催されました。同社は「食のみやぎ復興ネットワーク」の参加団体でもあることから、今年度は「復興支援の感謝を込めて東北の商品をたくさん利用していただく」と、同ネットワークに加盟する（株）加工連、岩手県産（株）の協力で、ウインナーやホタテ貝柱、イカなど宮城、岩手の県産品600人分が会場に届けられました。当日は、シーエックスカーゴ・仙台流通センターから伊熊杉尾所長他2



感謝祭では、東北の海鮮のブースに行列ができていた。



11年3月17日に撮影された、仙台流通センターの自動倉庫の様子。

人の社員が参加し、被災した社員を代表して武田耕太郎さんが、震災直後の全国からの物資提供と作業支援に対するお礼のあいさつを行なうと、大きな拍手が起きました。

東日本大震災により、シーエックスカーゴは建物の損傷、サーバーダウン、商品の落下など、大きな被害を受けましたが、震災当日から緊急支援物資出荷の体制を整え、翌朝には被災地に到着し、物資の供給をいち早く行ないました。その量は、震災1カ月後で、10トントラック約600台分にも上ります。

伊熊所長は、「震災直後の関東からの物資出荷のおかげで、こうして皆さんと感謝祭を楽しめるところまで来ました。経済の復興ができて初めて真の復興となると思いますので、これからも東北の食に関心を持ち、利用していただきたいと思います」と話しました。

福島県産米の 提供に向け 組合員が産地を訪問

東海コープ事業連合

2013年10月3日～4日、東海コープ事業連合（以下、東海コープ）は、組合員4人と職員7人の計11人が参加し、福島県須賀川市で福島県産13年度新米の産地見学を行いました。東海コープでは、13年11月の共同購入（宅配）の企画で、福島県産米を取り扱います。主食である米を取り扱うことについて、事業エリア内の組合員からは不安の声もあり、今回の産地訪問は、安全性を確認し、組合員に福島産の状況を正しく伝えることを目的に行なわれました。



稲刈りをした田んぼの生産者、小針武夫さんと話す参加者。



「きちんと検査し、そして、放射性物質を作物に移行させない努力をしている生産者さんの姿を伝えていきたいです」

3日は、米の全袋放射性物質測定検査を見学し、4日には稲刈り体験を行ないました。そこは、東海コープの職員が今年5月に田植えを行なった田んぼです。組合員は、生産者やJA職員らと交流しながら、福島県産の食品に対する理解を深めていきました。参加者の一人、コープぎふ全体区理事の山村まさこさんは、「不安が安心に変わりました。他の組合員に、今回見たことをしっかり伝えていきたいと思えます」と話していました。

この見学は、共同購入の誌面づくりにも反映されるので、参加した組合員は、誌面作成を担当する東海コープ・共同購入食品営業企画部の青木俊樹さんと熱心に打ち合わせをしていきました。青木さんは、「組合員さんからは、安全を守るための検査体制について詳しく載せたほうがいいという意見が多く出ました。また、生産者さんの顔写真もあつたほうがいいということで、本日、生産者さんの写真も撮影させていただきました」と話していました。

※ みやぎ生協を中心に、宮城県内の食に関わる業者、団体などがプロジェクトを組み、食から宮城の復興を目指す。13年10月15日現在、参加団体数は229。